

第2編 行動指針/計画編

第4章	多摩川流域の水流の実態解明と改善に向けた行動の目標	4-1
第21節	実態解明と改善の意義・目標	4-1
第22節	目指すべき流域の水流/水循環像	4-2
1.	水の流れの保全・水量の確保	4-2
2.	きれいな水の保全・水質の改善	4-2
3.	多様な生物を育み、潤いと安らぎを与える水辺空間の保全・再生	4-2
4.	豊かできれいな湧水・地下水の保全・再生	4-2
第23節	水流再生の目標	4-3
1.	水の流れの保全・水量の確保の目標	4-3
2.	きれいな水の保全・水質の改善の目標	4-3
3.	多様な生物を育み、潤いと安らぎを与える水辺空間の保全・再生の目標	4-3
4.	豊かできれいな湧水・地下水の保全・再生の目標	4-3
第5章	多摩川流域の水流の実態解明と改善に向けた行動指針	5-1
第24節	多摩川本川の水流実態解明と改善に向けた行動指針	5-1
第25節	支川の水流実態解明と改善に向けた行動指針	5-3
第26節	湧水・崖線の水流実態解明と改善に向けた行動指針	5-5
第27節	水路の水流実態解明と改善に向けた行動指針	5-7
第28節	地下水の水流実態解明と改善に向けた行動指針	5-9
第29節	森林の水流実態解明と改善に向けた行動指針	5-11
第6章	多摩川流域の水流の実態解明と改善に向けた行動計画	6-1
第30節	知る・調べる行動計画	6-1
第31節	現状を良くする行動計画	6-19
第7章	行動計画のレビュー・改訂の方針・計画	7-1

第 2 編 行動指針/計画編

第4章 多摩川流域の水流の実態解明と改善に向けた行動の目標

第21節 実態解明と改善の意義・目標

水流とは、河川流域内を流れる川や水路、地下水などの様々な水の経路とその水量・水質を示し、河川流域内の水流は、流域の自然環境を支える環境基盤となっています。また、水流は、人々の生活を支える水資源、潤いや安らぎを与える空間として、直接・間接的な効用を果たしています。

多摩川流域の水流については、流量が豊かで流れに変化があり元来の多摩川らしい水流に戻すという観点等から、清らかな水流の復活の要望が流域の自治体や市民などから出されています。

しかしながら、多摩川は、いわば極限に近く水資源を開発利用してきた河川であることから、こうした要望に応えるためには、一層きめ細やかな流水の正常な機能の維持が不可欠であり、それを可能とする調査及び検討が求められています。

これらの要望を受けて「多摩川水系河川整備計画『直轄区間編』」(平成13年3月策定)においては、“河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関して、河川水の利用実態、流入する下水道処理水の状況、流域における水の流れや汚染物質等の状況などについての諸調査・研究を実施するため、流域自治体、関係機関が一体となって多摩川の有すべき水量とその変動及び水質などについて明らかにする「水流実態解明プロジェクト」を実施し、地域住民の意見を反映させつつ政策を立案し、遂行していくこと”と策定されております。

この河川整備計画に基づき、これまで市民や市民団体、河川管理者、流域自治体等が共に現地を確認し、共通認識を形成することを目的とした「水流解明キャラバン」や河川管理者、流域自治体等で構成する多摩川流域協議会水環境部会において、水流に関する流域の現状や抱える課題、その要因等の基礎資料の収集・整理を行ってきました。

多摩川流域の望ましい水流(健全な水循環系)の再生に係わる施策の持続的な推進と発展的な取り組みにあたって、多摩川流域の水流として有すべき水量とその変動及び水質などを明らかにするため、今後さらに、水流に関する流域の現状や抱える課題、その要因等について、継続的に諸調査・研究及び検討を進めていくことが必要であります。

第22節 目指すべき流域の水流/水循環像

様々な水流の様態を持つ多摩川流域の目指すべき水流について、その様態毎に水流の目指すべき方向性を以下に整理する。

豊かで清らかな水が流れ、多様な生態系を育む、
水と緑のネットワーク（回廊）の流域の保全・再生を目指す

1. 水の流れの保全・水量の確保

多摩川本川、支川、水路における現在の水の流れ・水量を維持・保全するとともに、水利用の適正化や、流域の浸透能力並びに水源涵養機能の向上に努め、水流の回復を目指します。

2. きれいな水の保全・水質の改善

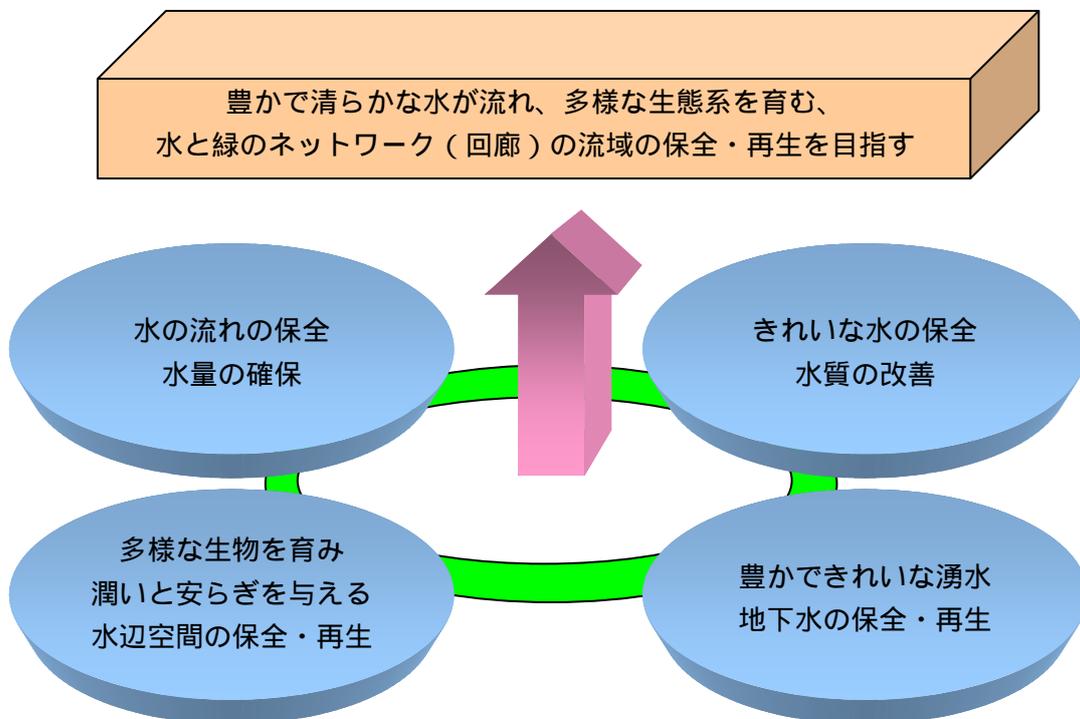
流域からの排水の浄化機能を高め、流域からの発生負荷の流入を抑制し、きれいな水の保全や水質の改善を目指します。

3. 多様な生物を育み、潤いと安らぎを与える水辺空間の保全・再生

子供から大人まで、安全で安心して水に親しめ、身近なところで豊かな自然と触れ合い感じられる水辺空間の保全・再生を目指します。

4. 豊かできれいな湧水・地下水の保全・再生

適正な地下水の利用や崖線や丘陵地の谷戸の緑地保全、水と緑のネットワークの維持により、豊かできれいな湧水・地下水の保全・再生を目指します。



第23節 水流再生の目標

1. 水の流れの保全・水量の確保の目標

豊かな水流の再生・改善の目標

河川流量の確保
農地・緑地・公園の保全など、雨水浸透面積の減少抑制
市街地の雨水浸透能力の向上
水の再生利用の促進

2. きれいな水の保全・水質の改善の目標

きれいな水流の再生・改善の目標

環境基準の100%達成
下水道整備の促進
ノンポイント汚濁負荷の削減

3. 多様な生物を育み、潤いと安らぎを与える水辺空間の保全・再生の目標

うるおいとやすらぎを与える水辺空間の再生・改善の目標

自然豊かな水辺空間の保全
緑被率の維持
水辺空間の健全な利用の促進

4. 豊かできれいな湧水・地下水の保全・再生の目標

崖線・湧水の維持・保全に関する目標

現在の湧水・崖線緑地の維持・確保・保全
雨水浸透施設の増加

地下水の保全に関する目標

地下水位の維持
地下水揚水量の抑制

森林の保全に関する目標

森林・樹林地の持続可能な保全
森林・樹林地の適正な維持管理

後述する改善に向けた行動計画と目指すべき水流/水循環像、水流再生の目標の関係を示す概念図を以下に示します。

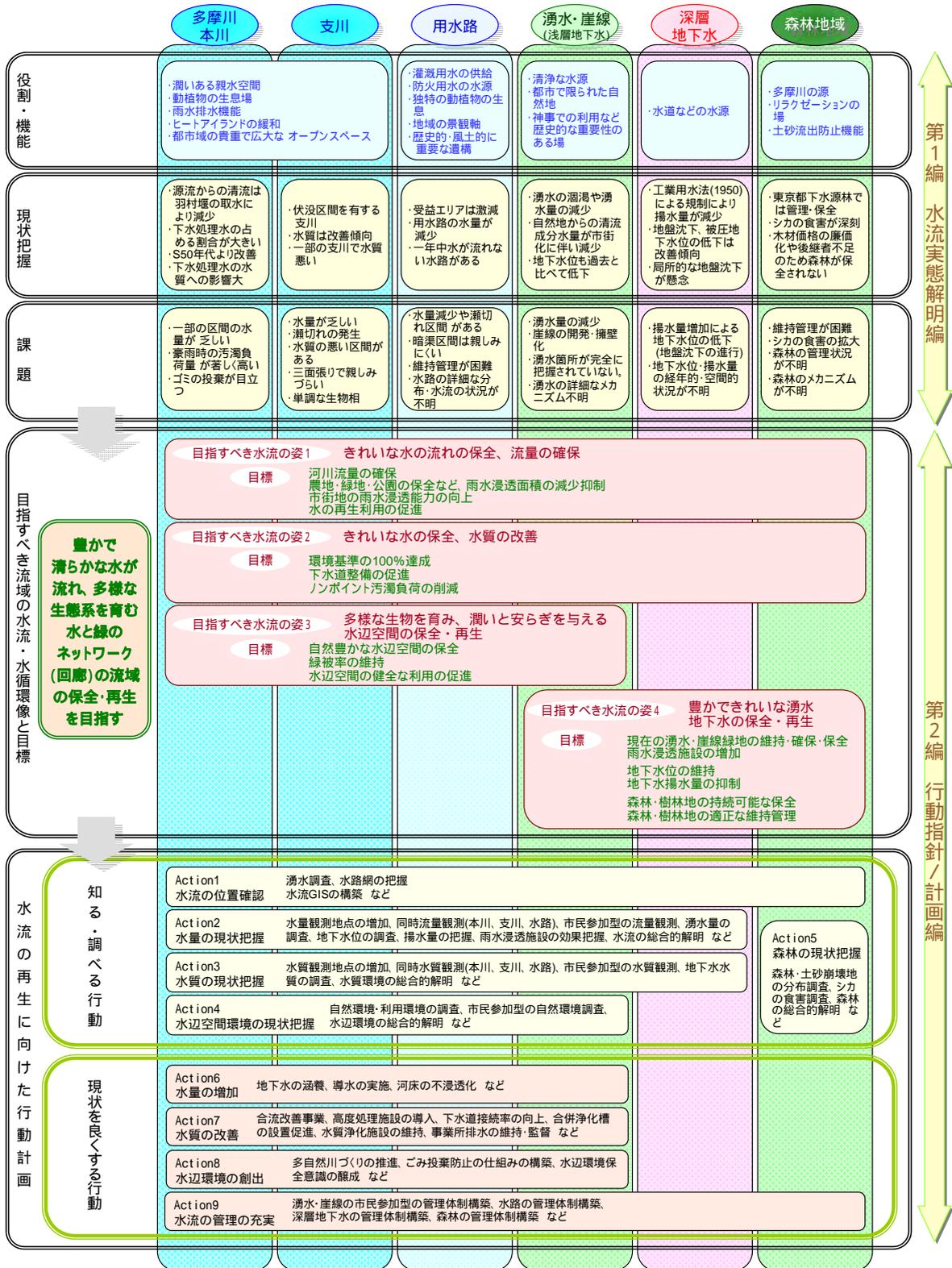


図1 目指すべき水流/水循環像、水流再生の目標と再生に向けた行動計画 関係概念図

表 1 行動計画一覧表（後章で詳述）

行動項目		具体的な行動
知る・調べる行動	Action 1 水流の位置確認	湧水の存在を確認するための調査を行います。
		水路網の整備の歴史的な経緯も踏まえつつ、水路網の現状の空間分布及び形態（開水路、暗渠、矩形断面等）を調査します。
		水流GISを構築します。
	Action 2 水量の現状把握	多摩川本川の水量観測地点を増やします。
		多摩川本川及び支川、水路での同時流量観測を行います。
		市民参加型の支川、水路の流量調査を行います。
		水路の全体流量観測を実施します。
		湧水の湧出量を観測します。
		浅井戸の水位を観測します。
		深層地下水の水位を観測します。
		地下水揚水量を把握します。
	Action 3 水質の現状把握	モデル小流域で、雨水浸透施設の効果を検証します。
		多摩川流域内での水の動きを総合的に明らかにします。
		多摩川本川の水量観測地点を増やします。水質観測地点を増やします。
		多摩川本川及び支川、水路での同時水質観測を行います。
市民参加型の水質調査を実施します。		
浅井戸の水質を観測します。		
Action 4 水辺空間環境の現状把握	深層地下水の水質を観測します。	
	多摩川流域内での水質の分布を総合的に明らかにします。	
	多摩川本川における自然環境及び利用環境の調査を行います。	
Action 5 森林の現状把握	市民参加型の自然環境調査を実施します。	
	多摩川流域内での水辺環境の状況を総合的に明らかにします。	
	森林、土砂崩壊地の空間分布調査を行います。	
現状を良くする行動	Action 6 水量の増加	シカの食害実態調査を実施します。
		多摩川流域内での森林の状況を総合的に明らかにします。
		地下水を涵養します。
	Action 7 水質の改善	導水を実施します。
		河床の不浸透化を図ります。
		合流式下水道における合流改善事業を進めます。
		高度処理施設の導入を推進します。
		下水道整備区域内の接続率を高めます。
		合併処理浄化槽の設置を進めます。
	Action 8 水辺環境の創出	河川水の水質浄化施設を維持します。
		各事業者による排水水質の維持を監督します。
		多自然川づくりを推進します。
Action 9 水流の管理の充実	ゴミ投棄防止の仕組みを構築します。	
	水辺環境の保全に関する意識を涵養します。	
	湧水・崖線地区を保全し、市民参加型の一体的な管理体制を構築します。	
	多様な主体の水路の管理体制を構築します。	
		深層地下水の管理体制を構築します。
		森林の管理体制を構築します。